金峰ダムが完成

農業生産の拠点に期待

金峰ダムの竣工式が26日、日置郡金峰町高橋地区で県関係者をはじめ、同町関係者、施工業者、地権者、地元住民など約400人が出席して開かれ、全員でダムの完成を祝った。

同ダムは、金峰町の慢性的な水資源不足を解消し、安定したかんがい用水供給を図ることで地域の経営規模拡大と農業生産基盤の向上を目指すことを目的に、県営かんがい排水事業（金峰地区）の一環として平成2年に着工。以後13年の歳月を経て、総事業費119億3000万円を費やして14年3月に完成した。

竣工式に先立ち、同町大坂で執り行われた記念碑除幕式では、神事に併せて須賀龍郎県知事、大久保金峰町長、地権・受益者など関係者による記念碑の除幕が力強く行われた。次いで、同町高橋地区のほ場現地で行われた通水式では、須賀知事をはじめ、施工業者代表らによって通水口が力強く開放されると、作物が青々と茂った畑地帯にスプリンクラーを伝って一斉に水の供給が開始され、出席者から拍手が沸き上がった。

引き続き、場所をグリーンドーム金峰へと移しての竣工・祝賀会では、須賀知事が「同ダムの完成によって、同町が農業生産の拠点となることを祈念したい」と式辞を述べた後、窪田不二雄県伊集院耕地事務所長から事業経過報告、金峰ダム竣工実行委員会長を務める大久保町長から、施工業者43社を代表して、飛島建設㈱九州支店の満江昭生氏に感謝状が贈呈された。このあと、祝賀会に入り、出席者全員で同ダムの完成を祝った。

感謝状の贈呈が行われた竣工・祝賀会
＝金峰町のグリーンドーム金峰で

内川床上浸水対策特別緊

治水安全向上等に期待している――と
挨拶する松石所長＝栗野町の現地で

川内川床上浸水対策特別緊急事業竣工式

治水安全向上に寄与

川内川床上浸水対策特別緊急事業の竣工式が26日、姶良郡栗野町と吉松町の現地で開かれ、関係者約200人が出席して完成を祝った。

式典では、主催者の松石忠俊九州地方整備局川内川河川事務所長が「幾多の悲惨な洪水被害をもたらした川内川だが、事業の完成により治水安全向上と地域の発展、自然環境豊かな河川整備に大きく寄与すると期待している」と式辞を述べた。

清治真人国土交通省河川局長（代読）の挨拶に続いて、有村次男同事務所副所長が工事経過を報告。来賓を代表して、小里貞利衆議、須賀龍郎県知事（代読）、川原秀男県議会議長（代読）、米満重満栗野町長、永野龍郎吉松町長が「関係者のご尽力と地権者のご理解、ご協力により、川内川治水に抜本的な対策が講じられたことに感謝する」と祝辞を寄せた。

式典終了後は、栗野町と吉松町それぞれの現地に建立された記念碑の除幕式や、栗野町立轟小学校の児童、吉松町立吉松小学校の児童による記念植樹も行われた。

川内川床上浸水対策特別緊急事業は、国の直轄事業として11年度から5カ年計画で実施された。総事業費は113億円。桶寄川や綿打川の改修、轟橋周辺や川内川河岸の掘削、橋梁架け替え等により、戦後最大とされる9年9月の洪水と同規模の洪水にも耐えられる安全対策がなされている。

北薩造園業協会ボランティア

修景緑地帯を管理清掃

北薩造園業協会（田中高徳会長、会員10社）は25日、国道328号の出水市武本交差点と薩摩郡宮之城町山崎北原口バス停近くの「修景緑地帯」の管理清掃をした。

この緑地帯は、走行中のドライバーや道行く人に快適な道路環境を提供しようと同会がボランティアで5年前につくった施設で、九州電力川内火力発電所近くの道路（旧道敷）も含め3カ所設置した。

同会では設置後、会員企業から2人ずつ動員して年3回四季の花を植え替えたり、植栽や剪定作業の維持管理を続け、また毎月1回当番制で会員が巡回清掃を実施している。

田中会長は「この修景緑地帯は自分たちがつくり、管理している施設です。安全に気を付け作業をしてください」と指示。石走豊稔副会長が作業手順を説明したあと、交通誘導員を配置しトリマーでツツジなどを刈り込み、持参した堆肥を入れて土の養生をした。花は川内市の自興園で育てたサルビアやマリーゴールドなどに植え替えた。

会員企業は次の通り。

㈲阿久根緑化センター　㈲川内緑造園
石走造園㈱　㈲えいしん緑化建設
㈲瀬口造園　㈲川内林業
㈲拓美庭苑　中越緑産㈱
南日緑化㈱　㈲村岡産業

自分たちがつくった修景緑地帯で維持管理
作業をする参加者＝出水市の現地で

南建設・南伸会奉仕作業

押切海岸の美化に励む

㈱南建設（南末男社長、曽於郡有明町）とその協力業者で組織する南伸会（長野幹人会長・ミヨシ建装㈱）は22日、有明町の通山・押切海岸で南建設社員全員と会員ら約35人が参加し、空き缶・ペットボトル・流木等の回収や清掃を行った。

当日は、現地に集合した参加者を前に南社長が「ともに汗を流し環境美化への呼び掛けと地域への恩返しで頑張りましょう。そしてその気持ちを各現場の安全と整理整頓へ反映していただきたい」と挨拶。長野会長は「南建設とともに仕事に奉仕作業に積極的に参加し、社会奉仕の一助となれるよう、これからも協力していきましょう」と呼び掛けた。

作業は、それぞれがごみ袋を持ち、波打ち際に打ち上げられたペットボトル、空き缶、流木などを拾い集めた。2トンダンプ3台の量になったごみ袋を処分場に運び処理した。

波打ち際に散乱するごみを拾い集める参加者
＝有明町の押切海岸で

安全確保の一助に行った奉仕作業
＝鹿児島市の現地で

富士産業奉仕作業

地域に感謝込め伐採

㈱富士産業（徳田俊郎社長）は25、26日の両日、鹿児島市の市道小野・山手線の同社本社前から伊敷町石井手取水場までの1・5キロ区間の伐採などの奉仕作業を実施、見違えるようにきれいになり、地域住民から喜ばれた。

奉仕作業は、梅雨前、毎年恒例事業となり、会社前を通る車両の安全確保と地域住民への感謝の意味を込め社員らが率先して実施しているもの。同路線は甲突川に沿った道路であることから、交通量も多く、道路に雑草や樹木などが覆い被さり車両通行の妨げになり、危険なため年度初めの同時期に計画されている。

同日は、朝早くから草刈り機やかまなどを持って事務所前に集合。作業を前に、徳田社長が「日頃、地域の方々に工事等で迷惑をかけることも多い一方、理解と協力を頂き、仕事がスムーズにできることに感謝している。奉仕の心と感謝の意味を込めて作業をお願いしたい。また、作業通行が道路に接しているので交通事故や、けがのないように十分気を付けて安全作業を」と挨拶した後、作業上の注意事項や作業範囲の確認などを行い、作業を開始。道路沿いに、うっそうと茂った雑木や堤防の夏草など、手際よく刈り取る姿に道行く人らが感謝していた。

作業を終え徳田健一専務は、「熱い中の作業は大変だったが、雑草を払って道幅も広くなり、気持ちよく通行できるようになったように感じています。梅雨を前に少しでも安全確保の手助けができたのではないでしょうか」と話した。

県建築審査会

全ての案件で同意得る

県建築審査会は26日、鹿児島市の県庁で16年度第1回会合を開き、建築基準法第43条第1項ただし書きの規定による接道義務特例許可23件を審議、指宿市十二町の指宿養護学校（校舎、食堂棟、EV棟）増築等の件などすべての案件について委員から同意を得た。